

労働力確保のための J A 間連携 : JA にしうわ

事業名 真穴みかんの里アルバイター事業

事業の概要



全国トップクラスのみかん販売高を誇る真穴地区では、大規模かつ短期的に農業雇用需要が集中する時期、農業労働力を確保するため「真穴みかんの里アルバイター事業」を実施。援農者確保に取り組む。さらに、繁忙期の異なる2つの産地（J A ぶらの、J A おきなわ）と連携。この連携を強固で継続的なものとするため、「農業労働力確保産地間連携協議会」を設立。援農者の相互紹介、情報共有を行っている。

背景・経緯

真穴みかんの里アルバイター事業は1994年スタート。みかん農家が従来行っていた縁故による雇用の確保が難しくなり、農業労働力の確保、担い手づくりを喫緊の課題として位置づけた。J A ではアルバイターの募集、面接、宿泊施設の運営などを担当。近年は労働力確保が困難となっていたため、農繁期の異なる農業地域と連携し、質の高いアルバイターの確保、募集活動の合同実施に取り組んだ。

事業のポイント

みかんアルバイター募集中!
11月10日～12月20日頃
日本一のみかんを届ける! やりがりのある仕事です

しっかり収入
交通費支給あり!

仕事終わりは
夕飯がキレイ!

食事・宿泊
費無料

時給800円
～1000円

ホームステイ
シェアハウス
宿舎は色々

気になる方は
<http://ja-nishiuwa-shikunohara.jp>
スマホは
QRコード

産地の垣根を超えた労働力の共有で質の高い援農者を確保
援農者の相互紹介、情報共有は、産地にとって作業スキルや意識の高い人材の確保につながり、援農者にとっても仕事探しの労力が軽減されるメリットを享受できる。

リピーターにつなげるためのハード・ソフト両面での労働環境整備
援農者を受け入れる宿泊場所を確保するため、廃校となった小学校を宿泊施設に改修。また、援農動機を満たすための生産者自身の意識向上や農業の魅力発信、信頼関係づくりに取り組みリピーターへつなぐ。

事業の効果



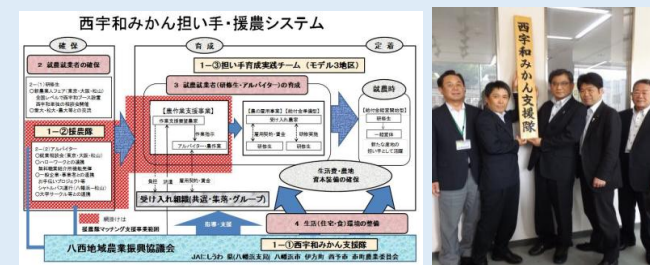
アルバイターの新しい働き方を提案し援農の魅力を高める

3 J A の農繁期は J A おきなわ12月中旬～翌年3月、J A ぶらのが4月～10月、J A にしうわでは11月～12月。うまく組み合わせることで安定的な周年就業が提案可能に。援農という働き方の魅力を高め、労働力確保に寄与している。

農業を入口にした地域活性化への寄与
援農者を単なる労働力にとらえるのではなく、生産者や地域と交流し、第二の故郷に感じてもらいたい。この地域の思いは地元の方と結婚したケースや就農を希望するケースなどの形となり実を結んでいる。さらに、援農者が地域に刺激を与え活気が出たという効果も認められている。

連携する組織等

アルバイター事業の重要な役割を担う「真穴みかんの里雇用促進協議会」
「真穴みかんの里アルバイター事業」を実施する「真穴みかんの里雇用促進協議会」は、県、市町村、農業委員等で構成され、J A が事務局を担っている。課題解決や新規事業推進を討議する場として機能し、機動的で柔軟な対応が可能。地域で活動する方や支援者など様々な関係者の想いのベクトルをそろえ、形にする機能を果たす



将来性・発展的展開

都市住民をターゲットにした「真穴みかんの里アルバイター事業」に対し、今後は地元住民の援農者の掘り起こしにも力を入れていく予定。さらに、J A こしみずとの新しい連携スタイルを構築。それぞれの農閑期に生産者が相互に産地に赴き労働力を提供。こうした雇用される側の経験が、より良い労働環境の整備につながることを期待している。重層的な支援メニューの提供がみかん産地の労働力確保により良い効果を生み出している。